

9割が直接取引

「規格・サイズの基準」当然

農畜産業振興機構

農畜産業振興機構は、実需者（中間業者を含む）を対象に実施した2013年度「加工・業務用野菜仕入価格等調査結果」を発表した。直近1年以内に加工・業務用野菜を仕入れている業者は6割で、カット野菜製造業では全社となった。取引形態は9割が直接取引で、卸売市場における相対取引は1割にとどまった。また、9割が加工・業務用においても「規格・サイズの基準がある」と回答し、もはや「当然」となっている。

調査は昨年10～11月に、惣菜製造業81.8%、漬物製造業77.8%の順で、青果卸売業では67.6%となった。業種別の入割合が高い業種はカット野菜製造業で100%

ト野菜製造業96.0%となり、他の業種でも8割以上となった。契約方法は、「数量」が76.8%、「数量＋面積」9.4%、「面積」5.4%の順で、すべての業種で「数量」が最多に。価格設定は月、シーズン、年間などの「固定」が52.3%、「市場連動」24.7%、「固定＋市場連動」22.6%で、食品卸売業をのぞくすべての業種で「固定」が最多となった。価格設定方法別に価格水準（8品目）を見ると、

ダイコン、タマネギ、キユウリ、ハクサイなどで市場連動が高くなっている。

価格設定の期間は「シーズン」50.6%が最も多く、「日単位」18.0%、「月単位」16.2%、「年間」13.4%。価格設定期間による品目別の価格水準は、月・日単位で価格変動する仕入形態がシーズンや年間単位に比べて高い水準にあることが多い。

価格設定の考え方は「市場卸売価格を参考」42.1%、「生産費を参考」34.5%、「製品価格から逆算」15.4%。業種別ではカット野菜製造業で「生産費を参考」が

多かった。品目別の価格水準は、市場価格を参考にするケースがおおむね高水準となっている。

運賃は「生産者負担」72.7%、「自社負担」27.3%。生産者負担はとくに惣菜製造業で割合が高く、以降冷凍食品製造業、カット野菜製造業の順。支払方法は56.9%で「別途支払う」、39.4%で「仕入価格に含む」となった。

国産品の仕入割合は「9割以上」が86.4%と高く、とくに漬物製造業で94.8%となった。国産品の仕入における課題は「定時定量供給」31.6%が最も多く、「価格の変動」29.9%、「価格の

高さ」22.6%、「ロットの確保」14.7%。青果卸業では「価格変動」を最も多く挙げ、カット野菜製造業では「定時定量」「価格変動」が多くなった。

また、品質規格・管理上の問題点として、「規格・サイズ」（40.9%）と「加工歩留まり」（22.0%）で6割を占めた。漬物製造業と青果卸売業では「規格・サイズ」、カット野菜製造業で「加工歩留まり」が最多。惣菜製造業では「トレーサビリティ」、冷凍食品製造業では「品質・衛生管理」「加工適性」が他の業種に比べて割合が高くなった。

国産の仕入、品質規格・管理上の問題点・課題（%）

	仕入に関する問題点・課題				品質規格・管理上の問題点・課題				
	定時定量供給	価格変動	価格の高さ	ロットの確保	規格・サイズ	加工歩留まり	品質・衛生管理	加工適性	トレーサビリティ
合計	31.6	29.9	22.6	14.7	40.9	22.0	16.5	9.8	6.7
漬物製造業	29.3	24.1	32.8	12.1	53.7	11.1	14.8	11.1	5.6
カット野菜製造業	31.3	31.3	9.4	28.1	12.9	51.6	6.5	16.1	6.5
惣菜製造業	11.1	22.2	33.3	33.3	12.5	25.0	25.0	12.5	25.0
冷凍食品製造業	66.7	11.1	22.2	0.0	25.0	0.0	37.5	25.0	12.5
青果卸売業	20.5	46.2	23.1	10.3	48.6	17.1	17.1	5.7	2.9
食品卸売業	50.0	37.5	0.0	12.5	37.5	37.5	12.5	0.0	12.5
その他	45.5	22.7	18.2	9.1	55.0	15.0	25.0	0.0	5.0